

環境教育掲示用教材 指導資料

環境教育掲示用教材は、児童・生徒に、環境に対する豊かな感受性や探究心、環境に関する思考力や判断力、環境に働き掛ける実践力など、私たちを取り巻く環境に着目し、持続可能な社会を構築していくための資質・能力の育成を図ることを目的として作成した教材です。

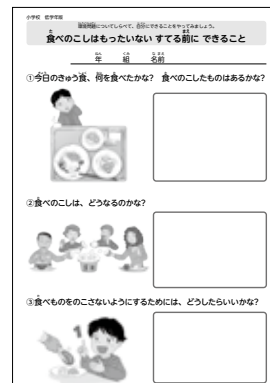
本指導資料では、環境教育掲示用教材の授業等での活用例を紹介します。

環境教育掲示用教材の活用例

環境問題について調べて、自分にできることをやってみましょう。

食べのこしはもったいない すてる前に できること

①表題



②ねらい

食べ残しをテーマに、ごみ問題を考え、持続可能な社会をつくろうとする態度を育成する。

③環境教育で対象とする主な内容 (ESDの構成概念)

資源の循環 (相互性)、自然や生命の尊重 (多様性・公平性)、生態系の保全 (相互性・責任性)、共生社会の実現 (多様性・連続性)、生活様式の見直し (責任性)
 ※環境教育指導資料 P8、P9 参照

④主なSDGsとの関連

【SDGs12】 つくる責任 つかう責任 (小学校・中学校共通テーマ)、
 【SDGs 2】 飢餓をゼロに、【SDGs14】 海の豊かさを守ろう、
 【SDGs15】 陸の豊かさを守ろう

⑤主な活動

活動内容 (○主な活動)	教師の支援 (◇留意点)	◆掲示用教材等との関連
○掲示用教材①を見て、食べ残しについて話し合う。 ○掲示用教材②を見て、食事が作られるまでの過程を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">1年間に捨てる食べ物の量はどのくらい</div> ○掲示用教材③④を基に、絵を見て、食べられるのに捨てられている食品がどれくらいあるかを学級全体で話し合う。 ○捨てられた食べ物は、ごみになってしまうことを考える。 ○掲示用教材⑤を参考に、食べ物をごみにしないために、自分にできることを考える。 ○気付いたことや感想を発表する。	◇食べ残しについて気付かせる。 ◇食事が作られるまでに、多くの人が関係していることを考えさせる。 ◇食べ残しは捨てられてごみになることを考えさせて、食べ物を残すことはもったいないことに気付かせる。 ◇イラストを参考に、自分にできることを考えさせる。(※食物アレルギーのある児童に配慮する。) ◇児童一人一人が身近な環境保全につながる生活を心掛ける必要があることに気付くよう、振り返らせる。 ◇【SDGs2】、【SDGs14】、【SDGs15】にも必要に応じて触れる。	◆掲示用教材① ◆ワークシート① ◆掲示用教材② ◆環境教育指導資料 P30 ~ ◆掲示用教材③④ ◆ワークシート② ◆掲示用教材⑤ ◆ワークシート③

※環境教育指導資料は、令和2年3月に各学校に配布した冊子です。
 ※東京都教育委員会ホームページで、環境教育指導資料及び本掲示用教材のイラストや図表等を公開しており、拡大して授業等で活用できます。



かんきょうもんだい 環境問題についてしらべて、じぶん 自分にできることをやってみましょう。

食べのこしはもったいない すてる前に できること

ねん 年

くみ 組

なまえ 名前

① 今日きょうのきゅう食しょく、何なにを食たべたかな？ 食たべのこしたものはあるかな？



② 食たべのこしは、どうなるのかな？



③ 食たべものをのこさないようにするためには、どうしたらいいかな？

